

令和4年度学校評価報告書

令和5年3月15日

北海道教育委員会教育長 様

北海道函館工業高等学校長 伊藤 良平

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(全日制)	
1 自己実現に切磋琢磨できる人間の育成。	
2 母校に誇りを持ち、社会で活躍できる人間の育成	
(定時制)	
1 個性を伸ばし、自己を高める態度を養う	
2 学ぶ習慣を身につけ、基礎学力を定着させ、社会の変化に対応できる態度を養う	
3 望ましい生活習慣を体得させ、心豊かな人間性を養う	
4 働きながら学ぶ意識を理解させ、望ましい勤労観・職業観を養う	
5 自他の生命の尊さを自覚し、正しく判断し行動する態度を養う	

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	学校教育目標に基づく学校経営では、一定の評価を得ている。しかし、課題解決のため組織的・系統的な取組みを行い、学校課題の明確化・共有化を一層図る必要がある。組織改革、部活動の在り方について見直し、更なる働き方改革の推進が必要である。	コロナ禍で教育活動が大きく制限される中ではあるが、生徒・教員ともによく頑張っていると評価されている。働き方改革の推進には依然課題があるが、外部人材を活用できないものかとの提案もあった。また、間口減による教職員の減少もあり業務精選や見直しの時期にあることも助言いただいた。
改善方策	教員が本来業務に集中できるよう、働き方改革、組織改革、業務精選を推進する。	
開かれた学校づくり	地域・保護者に工業高校を理解してもらうための情報発信が必要であるが、十分ではない。生徒が学習活動に取り組む姿を、HPやSNSの有効活用して発信したい。またものづくり教室も充実させ、工業高校の魅力を多くの人に伝えたい。定時制では日中の勤務を学習単位として認める「実務代替」を活用するなどして、働きながら学ぶ生徒の負担を軽減したり、実務能力の向上を図ること等が議論されている	部活動、資格取得、キャリア教育等で高い教育成果を上げているが、地域や企業との教育資源を活用することで、一層の教育効果が期待できる。専門教科の基礎的・基本的な勉強をしたうえでインターンシップを行うことで、職業観・勤労観の育成につながる。教育活動への一層の理解を得るためには、メディアの活用も効果的であると助言いただいた。また、学校評議委員会等の回数を増やし、学校に出入りする機会を増やしてほしいとの意見もあった。
改善方策	インターンシップ、現場見学、企業実習等の更なる充実に努める。また多くの手段を用い、定期的に学校情報を発信する。	
望ましい生徒の育成	スクールポリシーに基づき、生徒を育成するため、継続的な授業・評価改善が必要である。このため、職員研修を充実させ、教員の資質・能力の向上を図る必要がある。部活動が活発であり、資格取得にも意欲的な生徒が大半で、自主性や学ぶ意欲が高い生徒多いと評価できるが、更にその能力を引き出す教育活動が必要である。	部活動は活発で、資格取得に積極的に取り組むなど、自主性や学ぶ意欲が高い生徒が多いと評価された。グランドデザインを地域社会と共有し、学校・地域が一体となって生徒を育成することで、更なる教育効果が期待できる。また、多様な生徒等（LGBT）の対応も急がれ、教職員の確かな知識や研修が望まれる。
改善方策	新学習指導要領対応の教育課程実施をひかえ、探求的学習活動を充実させるなど継続的な授業・評価改善を行う。	
公表方法	・学校評議委員会・PTA役員会・総会での説明 ・本校ホームページへ掲載	